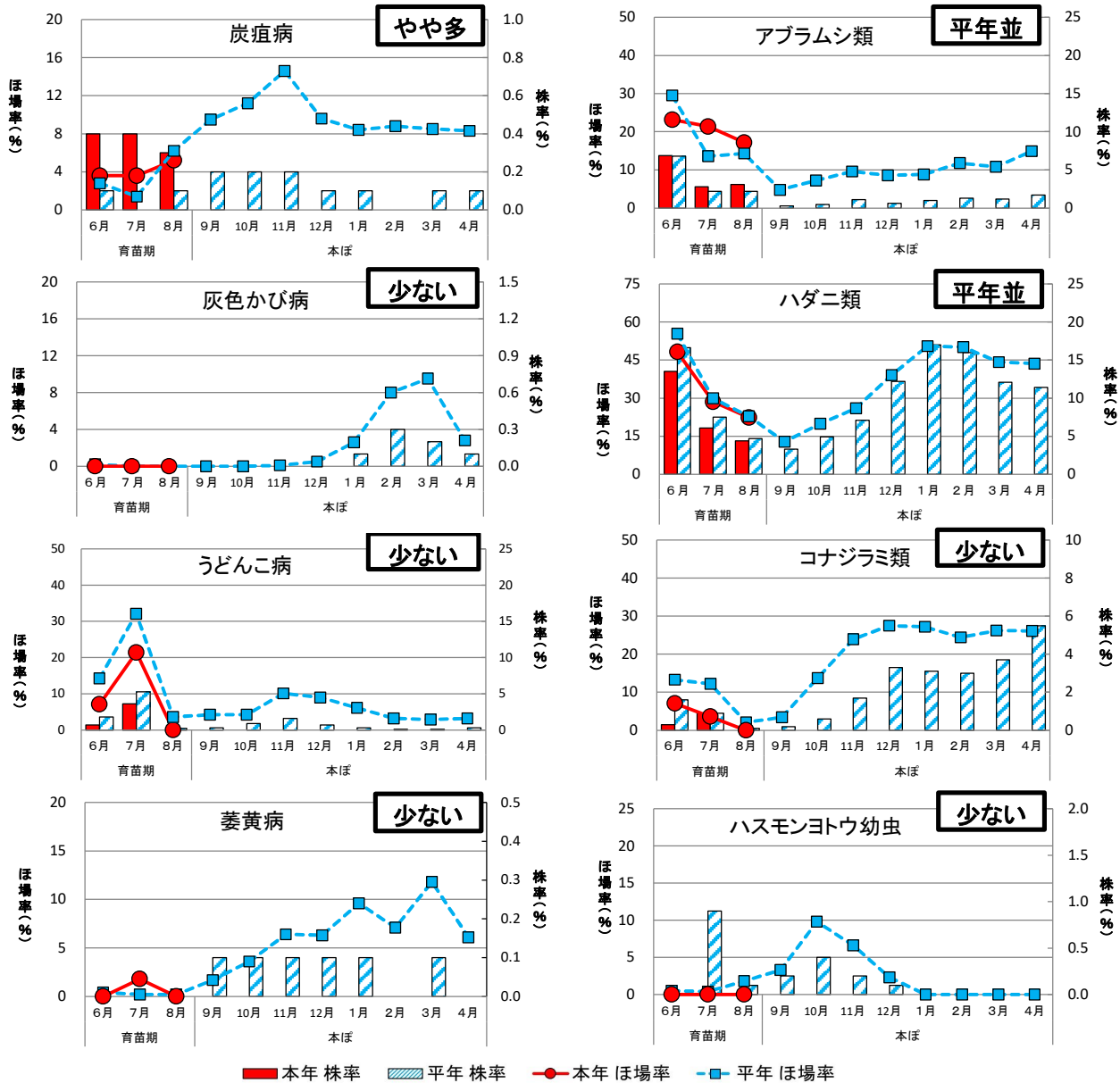


# いちご病害虫情報第3号（8月）

令和6（2024）年8月23日  
栃木県農業総合研究センター  
環境技術指導部

## ■ 病害虫の発生状況 【総調査ほ場数：58 か所】



※ほ場あたり25株調査 ※株率(%)：発生株数／調査ほ場数×25株 ※ほ場率(%)：発生が確認されたほ場数／調査ほ場数

## ■ 今月の防除ポイント

### ー 定植前の炭疽病対策 ー

本県において9～11月は、炭疽病の発生ほ場率・株率が高い時期です。今年は気温の高い状態が続いているため、例年以上に発生に注意しましょう。

### 【防除対策】

- 1 雨よけ栽培を基本とし、点滴チューブを用いるなど、できるだけ水の跳ね返りのない方法でかん水を行うのが望ましい。
- 2 本ぼへの持ち込みを防ぐため、育苗での防除を徹底する。予防を主体に、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- 3 発病株や感染が疑われる株は早急に取り除き、ほ場外で適切に処分する。  
発病株周辺の株は、発病が認められなくても潜在感染している可能性があるため、早急に取り除きほ場外で適切に処分する。

## ■ 今月のトピックス ハスモンヨトウ

### 生態と被害

卵塊（写真1）は毛に覆われた状態で葉裏に産み付けられる。

幼虫は、若齢（写真3）のうちは集団で葉を食害し不整形でカスリ状の食痕をつくる（写真2）。中・老齢（写真4・5）になると周囲の株へと分散し旺盛に食害し、昼間は地際や日陰に隠れるようになる。

幼虫は、頭の後ろに1対の大きな黒い斑紋のあるのが特徴である。

### 防除対策について

- 1 ほ場周辺の雑草は発生源となるため、除草を行う。
- 2 成虫の侵入を阻止するため、施設の開口部や出入り口に防虫ネット（目合4～5mm）を展張する。施設のパイプ等に産卵することもあるので注意する。
- 3 ほ場内の観察により早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫を寄生葉とともに摘み取り処分する。
- 4 幼虫の齢期が進むと薬剤が効きにくくなるので、発生初期の若齢幼虫のうちに薬剤防除を行う。



写真1 葉上の卵塊



写真2 寄生葉



写真3 若齢幼虫



写真4 中齢幼虫



写真5 老齢幼虫

詳しくは農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課(Tel 028-665-1244)までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはX(旧ツイッター)「栃木県農政部(@tochigi\_nousei)」、農業総合研究センターホームページ(<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>)でもご覧になれます。

